研究主題：主体的、対話的で深い学びの実現を目指して（２年次）

～TANKYU～

谷地南部小学校
校内研究だより
２０２２．１２．２２
№４８　文責　伊藤

学級懇談会より

以前 KENSYU（No.6）で紹介したように、３年生では家庭学習をタブレット上で提出する形をとっています。実施してから３か月が経ち、課題も見えてきました。全員の取り組みが見られないという点は以前もお話をしたのですが、先日の学級懇談会である保護者の方からお話をいただいたのです。

「なぜ、オンライン上での提出なのですか？今までは書いて学校に持っていけばよかっただけなのに、タブレットを開いて撮影してアプリを立ち上げて、やることが多すぎて大変です。」

提出方法の変更に当たって、学年だよりを通じて変更する経緯とそのメリットを述べさせていただいてはいたのですが、やはり直接ではなかったので真意が伝わり切っていなかった上に、私の一方的な想いのみで家庭の想いというのがないがしろになっていたのでした。私には、「家庭」の視点が欠如していました。ICT を活用することのメリットばかりを考えていて、その裏にある負担感が全く見えていませんでした。「家庭学習」と銘打って取り組んでいるのだから、提出の仕方もお任せでよかったのかもしれません。もちろん、提出するかどうかも踏まえて。責任感を感じて、「実施状況くらいは把握して声がけしなくては…」と思っていたことが、逆に家庭には負担をかけていて、同じ方向を向き切れていなかったのです。中途半端に関わろうとしていたことが、逆効果でした。

同様なことが学校の中でもありました。健康部では、「健康観察」や「欠席の連絡」をするのに ICT 機器を活用してより効率化を図れないかについて考えています。ICT を使う利点と欠点、そしてどのアプリを使うのが適切かについて考えました。校内で使うのか校外で使うのか、そして「欠席者が見られる」くらいの状況なのか学級閉鎖や休校なのかによっても対応が変わるかと思います。その中で、「朝の忙しい時間にわざわざタブレットを開いて、パスワードを打って、情報を入れて送る、というのは、正直保護者は大変なんじゃない？」との意見が出されました。懇談会に続いて、やはり家庭でタブレットを活用するのは、困難な点があるのだなと感じました。もちろん、「学習に使う」分には大いに効果を発揮するのでしょうが、「提出」や「回答」となるとタブレットの有効性は少し薄れるのかな、という印象です。

しかしこれらは、南部小の先生方が ICT をたくさん使ったり、これから更に使おうと検討したりしているからこそ見えてきた課題です。課題というか、言わば大きな「成果」です。事後研究会でも時折話題になるように、「アナログの良さ」が見え始めてきたのかなと思います。その段階まで来た南部小だからこそ、使う場面を判断してより良く使っていきたいものだなと思います。